

2015年1月14日

株式会社リクルートライフスタイル
ホットペッパーグルメリサーチセンター

和食を食べる頻度は平均約10回/週。この1年は増加傾向。 「食の安全」「無形文化遺産登録」「2020年オリンピック」効果も!?

株式会社リクルートライフスタイル(本社：東京都千代田区、代表取締役社長：北村吉弘)に設置された「食」に関する調査・研究、地域振興機関「ホットペッパーグルメリサーチセンター」(<http://grc.hotpepper.jp/>)は、2013年12月の和食のユネスコ無形文化遺産登録決定からほぼ1年を経過したタイミングにて、和食を食べる頻度やその変化、また、今後海外に発信すべきと考えている和食文化の内容につきまして、カスタマーアンケートを実施しました。その結果を発表いたします。

<要約>

■若者よりシニア層ほど「和食好き」。

和食は特に「晩ごはん」で好んで食べられる傾向。 . . . P3-4

→1週間21食中の和食回数、全体平均は9.9回との半数弱が和食。

最多は60代男性で平均11.6回/週。

→男女ともにシニア層ほど「和食好き」、若い世代ほど少な目。

→朝・昼・晩では最多は「晩ごはん」。平均4.4回/週が和食。

■「和食」を食べる頻度は増加傾向、「安全な」イメージが高い。

「無形文化遺産登録」「2020年オリンピック」も後押し。 . . . P5-6

→和食を食べる頻度、この1年は「増加派(34.5%)」が「減少派(4.9%)」を大きく上回る。

→特に30代女性では42.7%が増加派。20代男女では増減がはつきり。

→「増加派」の理由、最多は「食の安全問題(28.6%)」。「無形文化遺産登録(20.3%)」「2020年オリンピック(7.5%)」も影響。

■海外にPRすべき和食、全体で最多は「寿司・天ぷら」。 . . . P7

→食材・加工品部門1位：「野菜・果物類(44.0%)」。

メニュー部門1位：「寿司・天ぷらなど伝統和食(53.9%)」。

業態部門1位：「割烹・料亭・寿司店など伝統的和食業態(41.1%)」。

【本件に関するお問い合わせ先】

株式会社リクルートライフスタイル ホットペッパーグルメリサーチセンター

TEL: 03-6835-7380 <http://grc.hotpepper.jp/>

調査概要と回答者プロフィール

- ◎調査名 外食市場調査(2014年11月分)
- ◎調査方法 インターネットによる調査
首都圏、関西圏、東海圏における、夕方以降の外食および中食のマーケット規模を把握することを目的に実施した調査(外食市場調査)の中で、「和食」に対する嗜好や頻度の変化、世の中の出来事の影響、もっとPRするとよい日本の食などを聴取。
- ◎調査対象 首都圏(東京都、神奈川県、埼玉県、千葉県、茨城県)、関西圏(大阪府、京都府、兵庫県、奈良県、滋賀県)、東海圏(愛知県、岐阜県、三重県)に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)

■事前調査

- ①調査目的 本調査の協力者を募集するために実施
- ②調査時期 2014年10月23日(木)~2014年10月31日(金)
- ③調査対象 首都圏、関西圏、東海圏に住む20~69歳の男女(株式会社マクロミルの登録モニター)
- ④調査内容 本調査への協力意向、普段の外食頻度、普段の中食頻度
- ⑤配信数 277,411 件
- ⑥回収数 37,387 件
- ⑦本調査対象者数 17,407 件

- ◆本調査対象者の割付について
 - ・本調査では、回答者の偏りをできるだけなくすために、割付をおこなって回収した。
 - ・性年代別10区分×地域別25区分(首都圏地域13区分、関西圏地域8区分、東海圏地域4区分)=250セル について、平成24年人口推計(総務省)に基づき割付をおこなった。
 - ・本調査の目標回収数は、首都圏4,000s、関西圏2,000s、東海圏2,000s、合計8,000sとした。

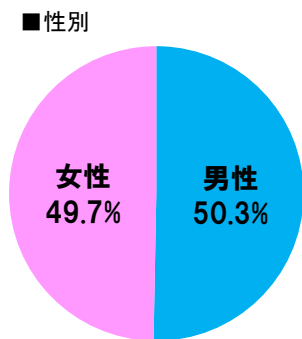
■本調査

- ①調査方法 事前調査で本調査への協力意向が得られたモニターの中から、脱落率を加味して設定した必要数をランダムに抽出し、本調査の案内メールを通知。
- ②調査期間 2014年12月1日(月)~2014年12月8日(月)
- ③配信数 13,350 件
- ④回収数 10,096 件 (回収率 75.6 %)
- ⑤有効回答数 10,002 件 (首都圏 5,028 件、関西圏 2,589 件、東海圏 2,385 件)

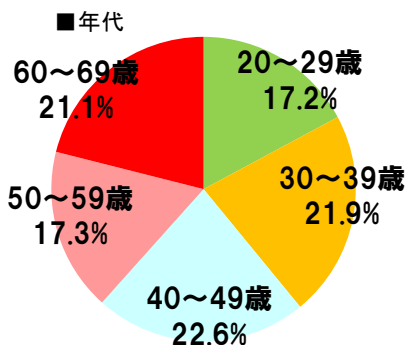
※回収された票のうち、自由回答コメントから、主旨に合わないかと判断された票を無効としたほか、事前調査時の普段の外食・中食頻度の回答と、本調査時の1カ月間の外食・中食回数が著しく乖離している場合、事前調査時の住所と、本調査時の住所が、圏域を越えて変わっている場合を無効とした。

- ◆集計方法について
 - ・本調査結果は、平成24年人口推計(総務省)における割付(性年代別10区分×地域別25区分=250セル)別の構成比に合わせてサンプル数を補正したウェイトバック集計をおこなっている。
 - ・補正後のサンプル数は次の通り。
3圏域・計 10,002 件(首都圏: 5,665 件、関西圏: 2,809 件、東海圏: 1,528 件)

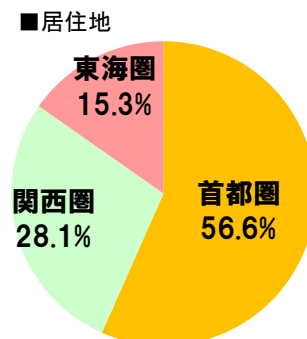
◆回答者プロフィール(ウェイトバック後)



n=10,002



n=10,002

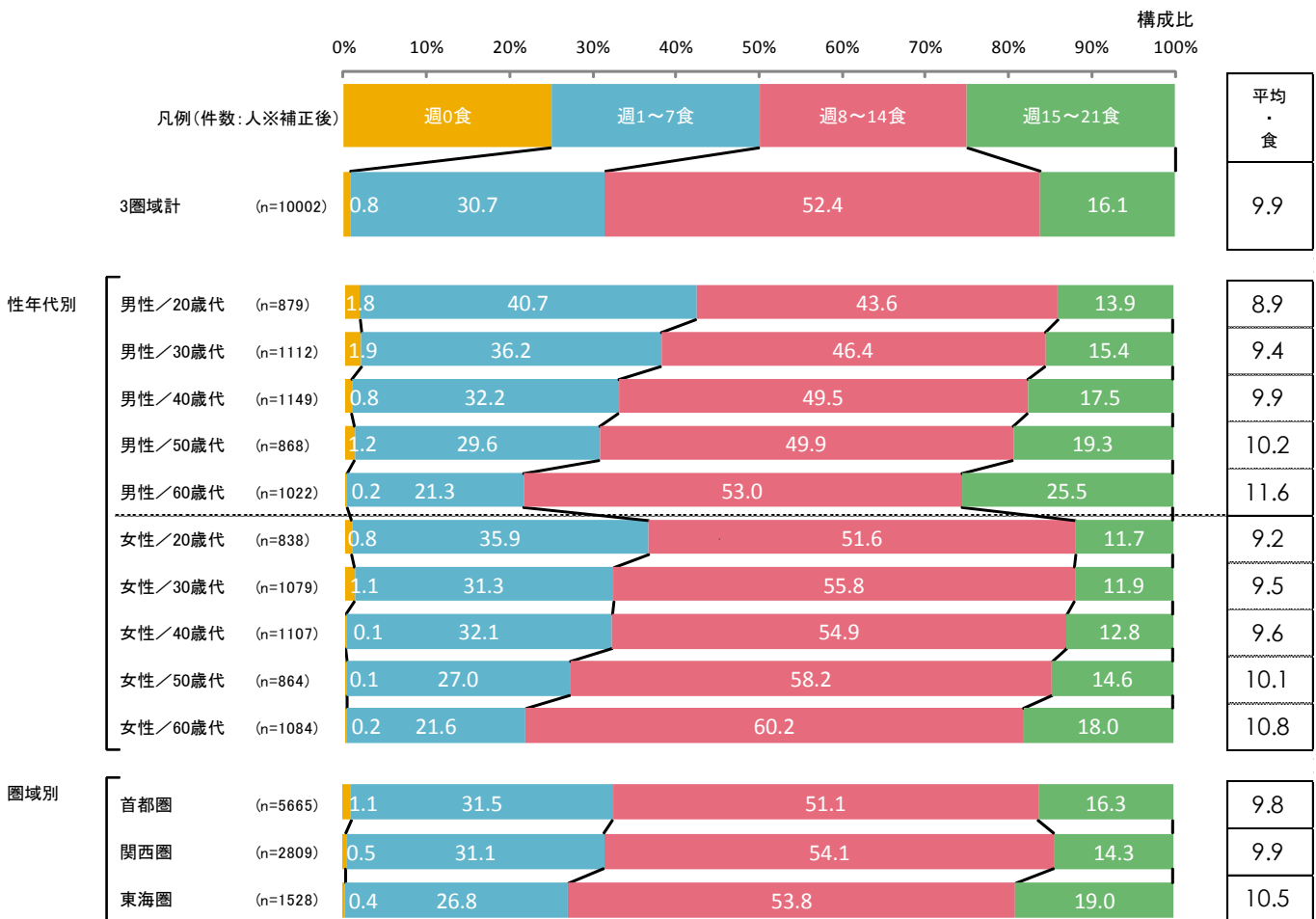


n=10,002

1. 若者よりシニア層ほど「和食好き」な傾向。圏域別では東海圏に和食好きが多い？

2013年12月に和食がユネスコ無形文化遺産に登録されることが決定した。その後ほぼ1年を経過したタイミングにて、和食についてアンケートを実施した。まずは、1週間の朝・昼・晩ごはんをどの程度食べているかを、1日3食×7日間で計21食中、和食を何回食べるかとして聴取。結果、全体平均は9.9回と21食中の半数弱を和食が占めているという結果であった。性・年代別でもっとも喫食頻度が高かったのは60代男性で平均11.6回。もっとも頻度が低かったのは20代男性で平均8.9回。男女とも年代が上がるにつれ、和食の喫食頻度は高くなる傾向にある。また、圏域別では東海圏が平均10.5回とちょうど週の食事の半分が和食という回答となっており、首都圏・関西圏よりもやや高い数値であった。

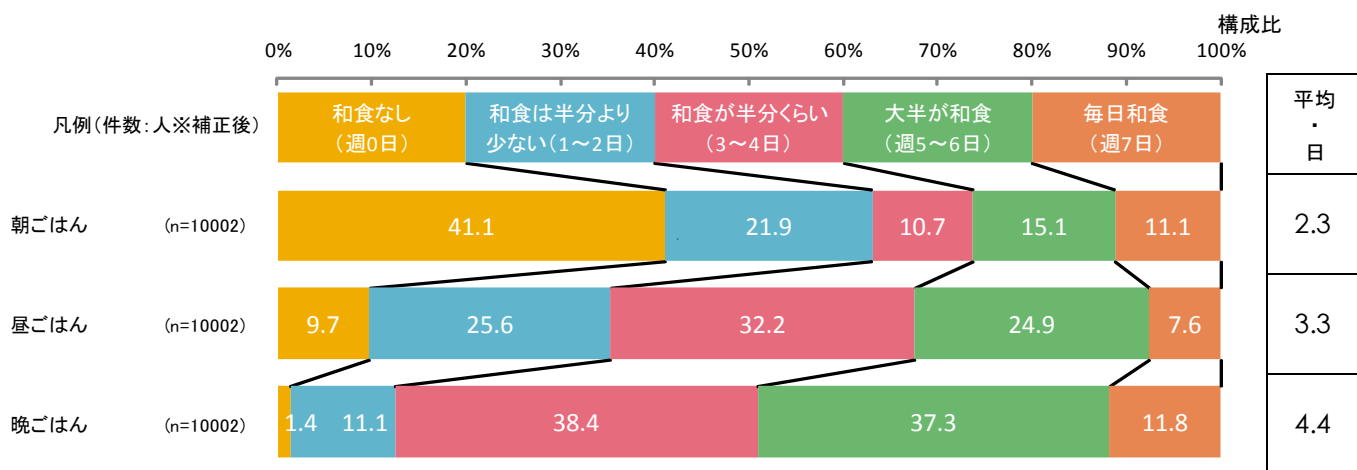
■1週間に「和食」を食べる頻度（3圏域計／単一回答）



2. 和食は特に「晩ごはん」で好んで食べられる傾向。

前ページのデータを朝・昼・晩ごはんの各機会ごとに見たのが下記のグラフ。和食の頻度がもっとも多いのは「晩ごはん」で、週7回の機会中、平均4.4回が和食となっている。逆に「朝ごはん」は平均2.3回ともっとも平均値が低いが、これはそもそも「朝ごはんを食べない」層も含まれているためとも考えられる。本調査では調査項目外のため、どの程度「朝ごはんを食べない」層がいるかはわからないが、昼ごはんと晩ごはんを比べても晩ごはんの和食の頻度が高いことから、和食は主に晩ごはん好んで食べられているようだ。

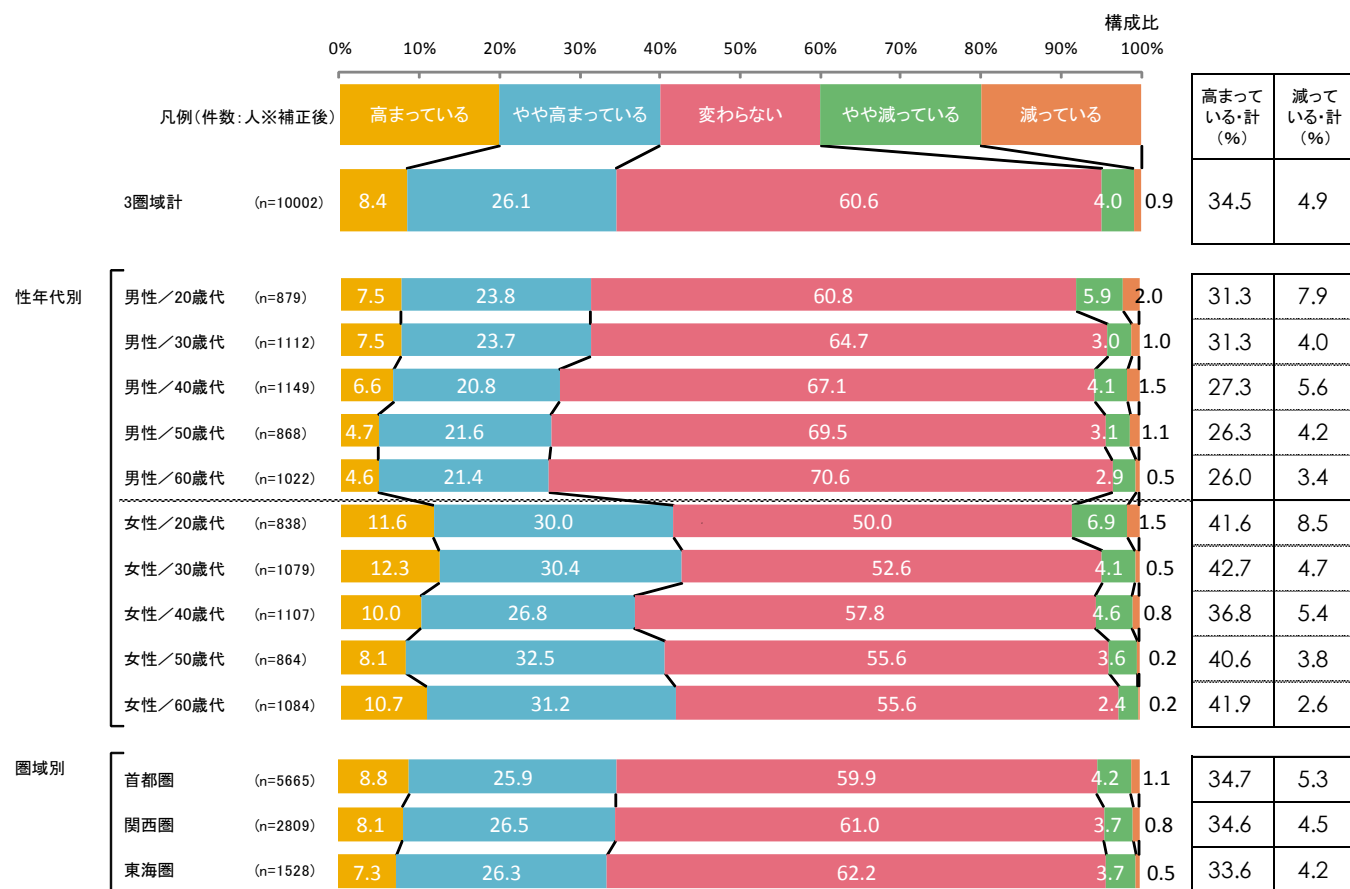
■朝・昼・晩ごはんに「和食」を食べる頻度（3圏域計／それぞれ単一回答）



3. この1年で「和食」を食べる頻度は増加傾向。20代は増減がはっきり。

この1年間における和食を食べる頻度の増減を聞いたところ、全体では頻度が「高まっている」「やや高まっている」の合計の増加派が34.5%、「減っている」「やや減っている」の合計の減少派が4.9%と、増加派が減少派を大きく上回った。性・年代別で増加派がもっとも多かったセグメントは30代女性で、42.7%が増加派となっている。また、女性では全年代で男性よりも増加派が多く、頻度が高まる傾向にあった。男性の中では20・30代の若年層で増加派が30%を超え、他の年代よりも和食を増やす傾向にある。ただし、男女とも20代で減少派が他の年代よりも多いことから、若者の間では和食を食べる頻度は他の年代よりも増減がはっきりしてきているとも言えそうだ。

■この1年間における「和食」を食べる頻度の変化（3圏域計／単一回答）

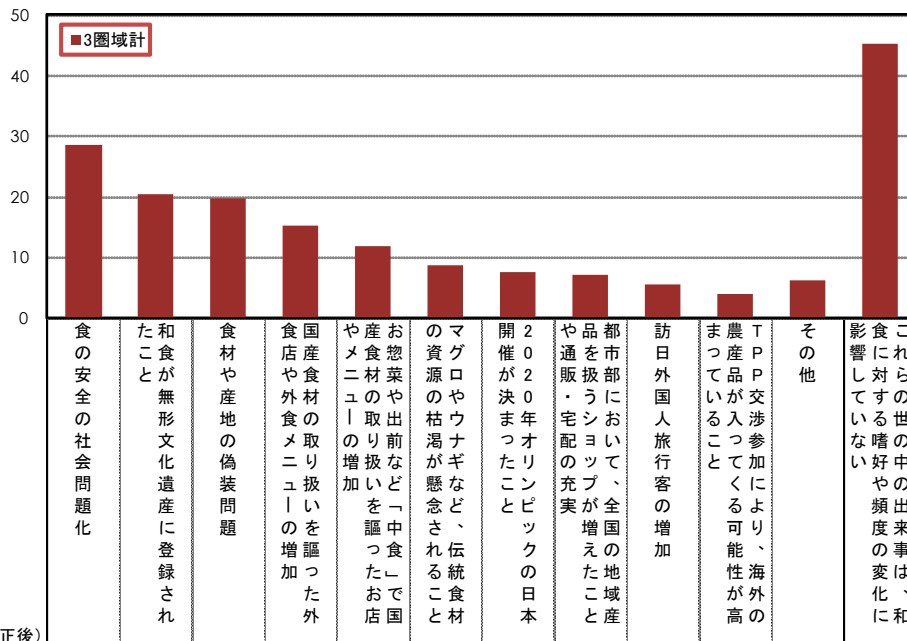


4. 和食は「安全な」イメージ。「無形文化遺産登録」「2020年オリンピック」も後押し。

和食を食べる頻度が増加した人に、その原因となる可能性がありそうな世の中の出来事を列挙して影響があったかどうかを聞いた。どの出来事も関係はないとする回答が半数弱と多かったが、過半数はなんらか、外的な出来事によって和食を食べる頻度に影響を受けたと回答した。内容で最多は「食の安全の社会問題化（28.6%）」で、和食は安全というイメージを多くの人を持っていることが伺える。次いで2番目は「無形文化遺産登録（20.3%）」が続き、「2020年のオリンピックの日本開催（7.5%）」もある程度和食の振興に寄与したと考えられる。性・年代別には、30代男性で世の中の出来事と関連付けて和食の頻度を増やした人が多かった。

■この1年間の「和食」に対する嗜好や頻度の変化に影響したと思う世の中の出来事 (この1年間の「和食」を食べる頻度が高まっている人／複数回答)

構成比(%)



(件数:人※補正後)

	3圏域計	3,451	28.6	20.3	19.7	15.2	11.9	8.6	7.5	7.0	5.5	4.0	6.1	45.2
性年代別	男性/20歳代	275	27.9	32.1	18.0	13.0	13.5	9.9	20.2	5.0	12.7	6.4	2.4	40.1
	男性/30歳代	348	37.0	25.4	26.5	18.5	13.8	9.4	12.9	7.7	8.5	4.0	4.9	36.7
	男性/40歳代	314	24.5	24.8	14.4	12.8	8.1	8.3	8.6	4.7	6.6	3.0	5.5	46.1
	男性/50歳代	228	28.3	22.6	18.9	17.7	7.6	12.3	7.5	6.8	5.2	3.5	6.7	44.1
	男性/60歳代	266	30.7	13.7	23.0	17.0	12.7	9.7	3.8	6.8	3.6	2.5	9.2	47.9
	女性/20歳代	349	26.1	19.6	19.3	17.2	11.8	7.9	8.6	6.6	5.9	3.8	3.7	45.3
	女性/30歳代	460	25.9	15.6	19.2	12.7	14.5	6.1	4.7	7.6	3.6	3.0	5.7	48.3
	女性/40歳代	407	31.3	20.0	22.3	17.6	12.1	7.6	3.8	7.4	3.6	3.4	5.7	41.6
	女性/50歳代	351	23.5	17.9	15.3	12.7	11.6	7.7	4.3	6.7	2.5	4.6	6.7	50.5
	女性/60歳代	454	30.8	16.3	19.6	14.1	11.3	9.8	4.7	9.1	5.2	5.6	9.6	49.3
圏域別	首都圏	1,967	29.8	21.6	20.0	15.9	12.4	8.8	8.4	7.7	5.8	4.3	6.1	43.1
	関西圏	971	27.5	19.7	20.2	15.3	13.1	8.5	6.0	6.7	5.3	3.6	6.5	46.3
	東海圏	513	26.3	16.2	17.9	12.1	7.9	8.3	6.9	5.0	4.9	3.5	5.3	51.3

単位:構成比(%)

赤字 3圏域計より5ポイント以上高い項目

グレー 3圏域計より5ポイント以上低い項目

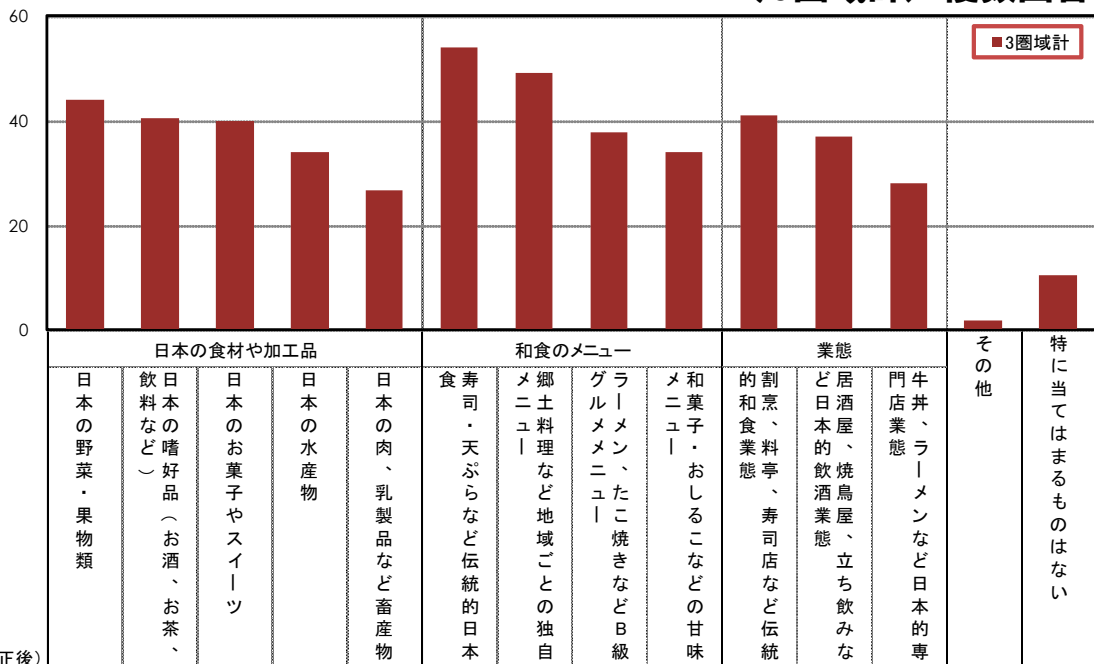
5. 海外に向けてPRすべき和食文化、全体で最多は「寿司・天ぷら」など伝統的日本食。

最後に訪日外客や海外に向けてPRすべきと考える和食文化をいくつかのカテゴリーにて聞いた。食材や加工品部門では「野菜・果物類（44.0%）」が他の加工品や水産・畜産物をおさえて最多、メニュー部門では「寿司・天ぷらなど伝統的日本食（53.9%）」が最多、業態部門では「割烹・料亭・寿司店などの和食業態（41.1%）」が最多と、それぞれ支持を集めた。ここでも全体的に男性より女性のほうが高い関心を示し、特に食材や加工品部門で「日本のお菓子やスイーツ」に関しては、女性が全年代で全体平均を5ポイント以上上回るなど、「オシ」度が強かった。

■訪日外国人旅行者や海外に向けて、もっとPRするとよいと思うもの

構成比(%)

(3圏域計／複数回答)



(件数:人※補正後)

性年代別	3圏域計	日本の食材や加工品					和食のメニュー				業態			その他	特に当てはまるものはない	
		日本の野菜・果物類	飲料など	日本の嗜好品（お酒、お茶、日本のお菓子やスイーツ）	日本の水産物	日本の肉、乳製品など畜産物	食	寿司・天ぷらなど伝統的日本メニュー	郷土料理など地域ごとの独自メニュー	和菓子・おしるこなどの甘味メニュー	割烹、料亭、寿司店など伝統的	居酒屋、焼鳥屋、立ち飲みなど	日本酒、焼鳥屋、立ち飲みなど			
3圏域計	10,002	44.0	40.5	39.9	34.0	26.7	53.9	49.0	37.8	33.9	41.1	36.8	28.0	1.7	10.4	
性年代別	男性/20歳代	879	35.2	29.7	33.9	30.1	24.1	55.7	35.6	36.7	26.9	30.9	24.3	22.9	0.7	15.0
	男性/30歳代	1,112	39.7	34.0	35.4	31.0	28.3	51.3	41.5	39.4	25.9	31.5	30.2	27.5	1.3	14.2
	男性/40歳代	1,149	41.2	35.4	33.6	29.3	27.4	47.4	41.8	36.7	27.9	32.8	31.0	25.3	1.5	14.6
	男性/50歳代	868	38.3	37.8	32.1	35.4	27.9	49.4	43.7	34.9	27.3	36.2	36.6	27.5	1.7	11.6
	男性/60歳代	1,022	46.0	49.4	29.0	39.0	25.9	48.2	53.3	31.5	26.6	48.5	46.5	28.8	1.9	9.0
	女性/20歳代	838	42.7	40.9	49.5	32.6	23.8	67.1	54.8	44.4	43.6	48.8	35.9	29.1	0.4	8.0
	女性/30歳代	1,079	48.1	39.9	47.4	34.2	29.1	59.1	56.0	44.7	41.1	41.4	38.5	30.1	1.8	7.9
	女性/40歳代	1,107	45.6	41.6	46.5	33.0	25.8	54.1	51.2	39.7	38.2	39.8	36.6	28.8	2.3	7.3
	女性/50歳代	864	49.9	44.3	47.7	37.6	27.8	52.2	55.5	36.4	41.3	46.3	43.4	28.9	2.6	8.0
	女性/60歳代	1,084	51.5	51.1	45.1	38.5	26.2	56.9	56.7	33.6	40.9	56.0	45.2	30.1	2.4	7.6
圏域別	首都圏	5,665	44.2	41.2	41.1	35.0	27.1	53.5	49.0	39.2	35.6	40.1	38.3	29.9	1.9	9.9
	関西圏	2,809	45.0	39.9	38.8	33.8	26.8	54.7	48.2	35.9	31.9	42.4	35.0	25.5	1.5	11.1
	東海圏	1,528	41.3	38.8	37.6	30.9	25.0	54.0	50.5	36.1	31.1	42.3	34.9	25.3	1.4	10.6

単位:構成比(%)

太字 3圏域計より5ポイント以上高い項目

3圏域計より5ポイント以上低い項目